

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

「連絡ボード」の設置

ホール入り口の壁面に「連絡ボード」を設置しました。今年度いろいろと変わった部分があるため、子ども達が自分で確認できるようにと考えました。朝読書や全校集会の有無、昼食や掃除の場所など、その日の動きはもちろん必要な連絡を分かりやすく伝えていくためのものです。

毎朝登校時に確認して、少しでも自分で考えて行動できるようになれば良いと思います。「連絡ボード」を見ることの習慣化を図り活用していきたいと思っています



分かりやすく表示されています

貴重な時間「水泳授業」

先週の木曜日、早くも第1回目の水泳授業を行うことができました。昨年度は使わせてもらえるプールがなかなか見つけれず、9月になってやっと水泳授業を始めることができました。

校舎には運動スペースはあっても体育館はないので、全身運動でしかも1人1人の実態に応じた指導ができる水泳の授業は大変重要です。子ども達に運動時間を確保することは、この国で生活していく上で十分に配慮しなければならない問題だと思います。

日本ではほとんどの子ども達が徒歩で登下校しています。毎日重いカバンを背負ってある程度の距離を歩くだけで、かなりの運動量になります。雨さえ降らなければ、休み時間のたびに戸外で運動することだってできます。戸外が無理でも体育館を使うことだっ

てできるでしょう。こんなふうに、日本であればあまり運動を意識しなくても、普段の生活の中でかなりの運動をしているはずなのです。

ところがこの国ではそうはいきません。意識的に運動の機会を確保しなければ、普段の生活をしていて十分な運動量はとてとれません。子ども達の健全な成長には、しっかりと体を動かすことは欠かせないので。

そのためにも水泳授業の時間を充実させていきたいと思っています。個々の実態に応じて、適度な負荷をかけた練習ができる水泳は、本当に良い運動だと思います。正味1時間をプールの中で活動するのは相当ハードな面もあります。体力・泳力・発達段階等を考慮し、1人1人の力を確実に伸ばすことができるように指導していきたいと思っています。



力強いバタ足で上がる水しぶき!!



どのグループも精一杯取り組んでいます

校長室便り

(文責)
トー八
日本人学校
校長 酢谷昌義



名札を胸に遊んでいます

児童生徒会執行部の配慮

昨日の中間休みに、児童生徒会執行部が全校のみんなをホールに集めていました。その場で執行部手作りの名札を全員に配り、早くみんなの名前を覚えようと呼びかけていました。さすが執行部、とても素晴らしい配慮だと感心しました。

昨年度は全校で集まったり行動したりする機会がほとんどでしたが、今年度は今までとは違っていています。毎日の弁当も全校やグループで食べる日の方が少なくなっています。学校で行っている体育の授業も、小学部1年生から4年生までと小学部5年生以上との二つに分かれています。休み時間だけは今まで同様、みんなが一緒になって楽しく遊んでいます。

お互いの関係を近づけるためには、どんなに小規模であっても早くみんなの名前を覚えたい方が良く決まっています。顔と名前が一致してはじめて友達になれたように感じるこ

とができるのだと思います。みんなの顔と名前を誰もが分かっているからこそ、小規模校の良さを発揮することもできるのです。

そのための取り組みを執行部のみんなが考えてくれたことは、本当に嬉しいことだと思います。またこの配慮には、これから転入してくる友達の



登校後名札をつけています

ことも考えてのことと聞き、ますます感心しました。誰でも新しい環境に慣れるまでは不安なものです。その不安をできるだけ早くなくしてあげようというところにまで考えがおよんでいるのが、何よりも素晴らしいと思います。

日本人学校に通う子ども達は、みんなが学校をかわるといいう経験を持っています。だからこんな配慮も生まれてくるのではないのでしょうか。自分の経験を生かし、周りの友達のことまで考えることができる優しさを大切にしたいと願うと共に、そういう面の指導を大事にしなければならぬと思っています。

朝のあいさつは.

スクール・バスを降りた時のあいさつが、だんだんと元気のいいものになってきました。新しい友達は慣れない環境に対する緊張感もあり、少し遠慮気味のあいさつでしたが、ずいぶん元気良くあいさつができるようになってきました。各教室からは、毎朝とても元気のいいあいさつの声が聞こえています。一日のスタートを気持ちよく切ることは、その後続く学習を効果的に進めるためにもとても大切



執行部手作り「みんなの名札」



教室での元気良いあいさつ

なことだと思っています。児童生徒数が増え全体の活気は今まで以上です。さらに一人一人がしっかりと声を出し、気持ちのいいあいさつができるようになってほしいと思います。「あいさつは心を映す鏡」いつも気をつけていたいです。

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

遊びは大切な人間関係作りの場

何よりも大切な人間関係

日本の雑誌の中に、大変興味深い記事を見つけたので紹介します。「早期教育効果は小学生で消える」という内容で、私自身考えさせられることがずいぶんありました。

お茶の水女子大学の内田伸子教授（発達心理学）の話。

子どもの学力格差は親の所得格差ではなく、親子のかかわり方が大きく影響している。たしかに「読み・書き」能力だけみれば、3歳では親の所得や教育投資額が多いほど高かった。しかし、その差は子どもの年齢が上がるにつれて縮まり、小学校入学前に消滅した。文字などの早期教育の効果はわずか、数年しか続かないのだ。また、別の研究でも、漢字の習得では、早期教育を受けなかった子どもとの差は小学校2年生ごろに消滅し、むしろ国語嫌いは早期教

育を受けた子に多かったということもわかっている。(中略)

語彙力というのは自律的思考力を支えるものです。所得が低い家庭であっても、子どもとのふれあいを大事にして、楽しい経験を共有するような『共有型』の養育スタイルの家庭の子どもの語彙得点は高いのですが、所得が高くても大人の思いを押しつけ、トップダウンで禁止や命令、体罰などを多用する場合は子どもの語彙の成績は低いのです。他の子どもとの比較や勝ち負けの言葉を多用するとか、子ども中心で親が犠牲となる教育も、学力基盤を育むのに効果はありません。つまり親の「人間力」こそ、子どもの語彙力の発達には重要だということだ。しかも、この語彙力こそ学童期以降の子どもの学力と関連がある。

また、文字を習得している

幼児と習得していない幼児に、それぞれ空想でお話をつくってもらったところ、文字を習得していない子どもの方が想像力豊かな内容だった。幼児期には五感を使って親子で体験を共有することが大切です。親子のコミュニケーションや会話のやりとりを通じて、子ども自身が考えて判断し、親子の絆が深まっていく中で子どもの語彙力は豊かになる。お金をかけなくても子どもは伸びるのです。

この記事から、子どもに接する周りの大人の関わり方がいかに重要であるかを感じました。私達自身が「人間力」を高めていかなければならないと思いますし、子ども達とのコミュニケーションを十分にとる努力をしなければなりません。



少人数学校の良さはいろいろな場でコミュニケーションの密度が高まることではないでしょうか・・・

校長室便り

(文責)

トー八
日本人学校校長
酢谷昌義

学校が楽しいことこそ

昨日紹介した記事にはまだ続きがあります。さらに重要だと思われる内容が残っていますから、引き続き紹介したいと思います。

小児科医で、お茶の水女子大学の榊原洋一教授は、著書『子どもの脳の発達臨界期・敏感期』の中で、脳神経学的に胎児期や乳幼児期の早期教育の有効性を正当化する科学的根拠はないとしている。むしろ、早期教育の弊害として一番心配されるのは、子どものストレスだ。早期教育を受けている幼児は、受けていない幼児に比べてストレスが高かった。さらに早期教育を受けている幼児は、昼間の幼稚園での活動が鈍くなっていた。幼稚園後の「お勉強」に備え、日中は活動を休止して子どもなりに心と体のバランスをとっているのだろう。日中の活動の低下は子どもの発育にとってよくはない。

子どものストレスは早期教



毎朝元気良く登校してきます

育で終わらない。小学校に入れば塾通い、中学受験、それが終わっても高校・大学受験と常に急ぎ立てられていく。

塾や学習教室での先取り学習も逆の効果を生む危険性がある。塾などで勉強したことを学校で「復習」する状態が常になると、学校での勉強がつまらなくなる。塾に通う子どもの中には「(学校の勉強は)簡単すぎてばからしい」と言う子どももいる。こうした子どもたちは、結果として学校の勉強に対するモチベーションが低下し、集中力も低下する。それこそが中学校以降の学力低下につながりかねないのだ。

だが、榊原教授は早期教育や中学受験に熱心な親たちを一概には非難できないと話す。格差が広がるばかりの社会で、親が子どもの幸せのためにできることといえば、よりよい教育を受けさせることと思いつめるのも無理からぬことだからだ。フラッシュカードで天才児が育つかのような、教育産業のマニュアル化した教材は魅力的に見える。

榊原教授はこう話す。「早期教育が子どものストレスにならず『親子のふれあい』に寄与する程度なら使っても良いでしょう。」

早期教育の効果はわずか数



楽しい全校でのお弁当の時間

年足らず。だが、子どものストレスは成長した後も心に長く重くのしかかる。

内田教授は、「子どもはお母さんが大好きだから嫌とは言わない。だからこそ、親は子どものストレスのサインを見逃してはいけない」と話している。

【アエラ(4月26日号)から】

昨日から紹介しているこの記事を読んで、私は「学校が楽しい!」と子ども達が思えることが最も大切なことではないかと感じました。学校が楽しいということは授業が楽しいということでもあります。

早期教育や先取り学習が、かえって学校を楽しめない場所にしてしまうのなら、子ども達にとって不幸なことだと思います。「分かる・できる・関わる・伸びる」そういう喜びと楽しさを、少しでも多く味わうことができる学校にしていきたいと思います。



先生と一緒に遊ぶ休み時間

校長室便り

(文責)
トー八
日本人学校
校長 酢谷昌義

児童生徒会活動始まる

児童生徒数が増えたこともあり、今年度は5つの委員会（昨年度は4つ）を組織しました。小学部1年生から誰もがどこかの委員会に属し、みんなのための活動に取り組みます。

各委員会で目標や活動内容を相談し、それを知らせるための掲示物作りをしてきました。そして昨日の5時間目に、各委員会から前期の活動について発表会を行いました。

それぞれの委員会が発表の仕方にも工夫を凝らし、聞いているだけでも楽しい時間になりました。人前での発表にあまり慣れていなかったり、みんなの前で発表するのが今年度初めてであったり、やはり緊張している様子もうかがえました。しかし、誰もが自分に任された部分の説明をしっかりとできたのは、とても立派だったと思います。



執行部
目標
【計画的に活動する!!】



美化委員会
目標
【学校よかがやけ!!】



昼食委員会
目標
【みんなが安心して食べられるようにつくえをきれいにふく】



生活安全委員会
目標
【みんなが安全にすごせるように活動する!】



図書太郎委員会
目標
【みんながたくさん本を読むようになる!】

みんなのために!!

小規模校では何をするのにも、みんなで協力することが必要になってきます。委員会活動は、この協力するを経験する貴重な場です。また自分のためだけでなく、みんなのために自分の力を尽くすことの大切さを学ぶ場でもあります。

自分が誰かの役に立っている、何かの役に立っていると感じることによって、自尊心とか自己肯定感というものを育むことができます。現代の子ども達には、この経験をさせることが大変重要ではないかと感じています。

みんなで力を合わせ、みんなのために活動する委員会活動を、充実したものにしていきたいと思っています。

